B 100　運針の諸要因（第1報）　－指使いについて－

大妻女大家政　木野内清子　○渋谷有里恵　飯村治子　金井ゆり

目的　運針は，和服裁縫の基礎基術として必要視されており，和服構成実習の第1歩として習得させる。現在，大学において和服構成を履修する学生の半数は運針の未経験者であり，単純な運針の習得に難渋している状態といえる。また，単に運針未経験者と言うだけでなく，全体的に指の動きの鈍さがみとめられ，その習得をより難しいものにしている。そこで，運針技術における指使いの要点を探り，容易に体得させるための方法を見出すために本調査，実験を試みた。

方法　指使いの要因について和服裁縫専門家の聞取り調査を行った。次に，被服専攻の学生，150名の運針難易度をアンケートにより調査した。また，被験者（運針未経験者，習得者，熟練者各5名）の指使いの差を観察，分析した。

結果　和服裁縫専門家においては，運針熟練の第一の要因は指先の力を抜くことであり，利き手の第1・2指が円弧を形成し得れば運針は容易となると指摘した。運針難易度アンケート調査の結果は，針を持つと指が動かない，針が指貫に当りにくい等，指が任意に動かせないことが示されている。実験では，初心者の場合，針を持つために利き手の第1・2指に少要以上の圧力が加えられるために，指が伸びきるか，または，円弧の形のまま固定されるような状態で指先の動きを除外しており，運針の難易は指先圧に関与することがみとめられた。